

3月7日茨城県議会再処理関係質疑応答要旨

43. 3. 17.

大 丸 山 正 倫

出 沼 議 員

再処理工場設置について知事の見解を伺いたい。

小幡議員の報告によれば、東海村と海外の再処理工場設置位置とは条件が「違いすぎる」。東海村は欧州の状況とあまりにも「離れすぎ」て安全管理上問題がある。

再処理工場はSGNの設計も完成予定であり、年内に着工となっているが、50年には6倍の使用済み燃料が出ると2月27日の茨城新聞は伝えている。それなら大熊など広大な土地に選定し特集に備えるべきではないか。

動機は「勝田市などを説得し設置しよう」と努力しているようであるが、一番切実なのは漢民がある。それを忘れては困るのだが、知事の見解はどうか。

知 事

大熊という考え方もあるけれど、とりあえず「東海炉からの燃料を対象とすること」で東海村を考えているようである。

海洋、気象等の全体調査からみても、技術関係の仕組み、放射線管理が総合的にできている、という点から東海村にあぐらという考え方が強いようである。

知事としては3つの条件(地帯整備、安全性、射爆場)が満足されるように政府に要望しているが、まだ「解答がない」。

漢民の考え方を無視しているということはなく、十分関係者の意見を反映させるつもりである。